

CON-TECH

ひょうご

11号
May.2001

事業レポート

ふるさとの自然をいかし

住民・企業・行政がパートナーとなって にぎわいを創り、花のあふれる川を育てる



特集
(財)兵庫県建設技術センター
平成13年度事業内容の紹介
クローズ・アップ
(財)兵庫県建設技術センター5年間の歩み

神崎農村公園「ヨーデルの森」の中央を流れる追上川は、県がアルプス地方の溪流をイメージして整備

CON-TECHひょうご

CON-TECHひょうご 第11号 2001年(平成13年)5月24日発行(年3回発行) 第4巻第2号 通巻11号
発行人/財団法人兵庫県建設技術センター TEL:078-272-4200 FAX:078-272-4207
神戸市中央区八幡通3-2-5 IN東洋ビル4F 編集協力/財団法人神戸新聞総合出版センター

建設技術知識

11

押し寄せる性能規定化の波

資源の有効利用、新技術の導入、建設コストの縮減、長期的な耐久性の確保、基準や規格の国際的な整合を図ること、その他私たち公共事業に携わる者は、今、多くの問題に直面しています。前述の問題を解決するために、各種の技術基準類は性能規定化へ動き出しています。

通常、公共施設の設計・施工は、材料や寸法、プロセスなどの仕様を規定したのですが、建築では土木より一足先に、建築基準法の改正が平成10年になされ、性能規定化の体系へと見直されています。

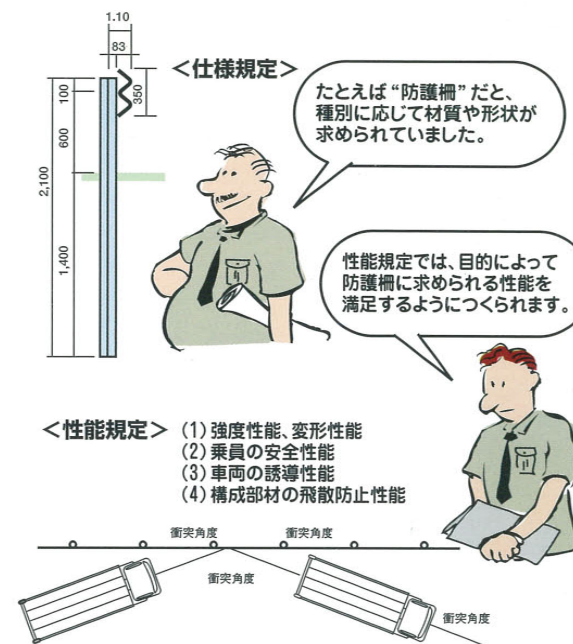
日本道路協会発行の『防護柵の設置基準・同解説』(平成10年11月)や土木学会『コンクリート標準示方書(施工編)ー耐久性照査型』(平成12年1月)は性能規定の考えがベースとなっています。まだまだ私たち土木の世界ではこの方法は浸透していないのが現状です。

現在の材料、寸法など仕様を規定する方法は、技術の多様化・創造に対応しにくいものです。そこで、材料や寸法などを規定するのではなく、要求される性能を規定する方法を採用することで、設計や施工の際に技術者の裁量が広がり、新技術の導入が図りやすくなるため技術的な競争が盛んになります。その結果、工期の短縮や建設コストを下げることに役立つことができます。

一方、グローバル化の背景の下、技術規定は性能規定という国際的な標準化への動きもあります。

土木学会では平成17年までに『コンクリート標準示方書』を性能照査型の体系に全面的に移行する予定です。また、道路橋示方書も近々、性能照査型へと踏み出す改定がなされます。河川関係についても今年度中に河川構造物等の設計基準を、平成15年度までに施工基準の性能規定化を図る予定です。

このように着実に私たちの世界にも性能規定化の波が押し寄せてきますが、それが要求される性能に達しているかを確かめる検証や試験をどうやっておこなうのか、性能の保証期間や性能が満足しなかった場合のペナルティをどうするかなどの検討課題が残されています。



兵庫県加古川土木事務所では、自治体で初の性能規定型発注(排水性(低騒音)舗装工事)を平成13年1月25日におこなっています。性能規定の導入のメリットについて兵庫県道路保全課では「従前よりも受注者の技術力、工夫を活かしやすくなることから、新技術の開発による品質・性能の向上などが期待できる」と述べています。

性能規定化の波は、これからは技術力が試される時代が到来することを示唆しています。いずれにしても、技術系職員は、標準設計やマニュアルに頼らない基本的な技術力の獲得が、最低のハードルとして求められることでしょう。



兵庫県建設技術センター
Hyogo Construction Technology Center

〒651-0085 神戸市中央区八幡通3-2-5 (IN東洋ビル4F)

TEL: 078-272-4200 E-mail: kengi@hyogo-ctc.or.jp
FAX: 078-272-4207 URL: http://www.hyogo-ctc.or.jp

阪神事業所 〒662-0857 西宮市中前田町1-25	TEL:0798-34-2275 FAX:0798-34-2285
播磨事業所 〒670-0962 姫路市南駅前町124	TEL:0792-81-3377 FAX:0792-81-3388
但馬事業所 〒668-0055 豊岡市昭和町2-56	TEL:0796-29-3031 FAX:0796-29-3073
丹波事業所 〒669-3309 氷上郡柏原町柏原上町東側280-1	TEL:0795-73-3750 FAX:0795-73-3660
淡路事業所 〒656-0022 洲本市海岸通1-11-1	TEL:0799-25-5150 FAX:0799-25-5170



(財)兵庫県建設技術センターの英語表記である「HYOGO CONSTRUCTION TECHNOLOGY CENTER」の頭文字を組み合わせたとともに、皆様方相互(CON)の建設技術(TECH)の交流の場づくりを担いたいとの思いから名付けました。

編集後記

事業レポートは、完成もしくは概成した県内の施設の中から、整備の観点・計画づくり・整備手法・整備体制・整備後の活用などに特色がある事例を紹介させていただき、他の市町が参考になると思われる情報を提供しています。

例えば、連携による効果的・効率的な整備事例として、異なる事業分野間の連携、県と市町の連携、行政と住民の連携、ハードとソフトの組み合わせなどですが、このようなコンセプトに合うような事業がございましたら、ご紹介させていただきたいと思っておりますので、お声をおかけください。

住民・企業・行政がパートナーとなって にぎわいを創り、花のあふれる川を育てる

神崎郡神崎町（中播磨県民局管内）



美しい川はそこに住む人の誇りであり、みんなの大切な財産でもあります。川での遊び方を知らない子どもが増えているといわれていますが、子どもが遊べるような水辺は自然の生き物にもやさしい水辺にちがいません。

今回は、美しくにぎわいのあるふるさとづくりを、住民と企業と県・町が一体となって進めている神崎町を取りあげ、それぞれの取り組みを紹介します。

子どもたちが水辺で遊べるように、棚田をイメージして階段状に配置された「じゃぶじゃぶ池」

砂防ダムは、自然環境への影響を少なくするため透過型の格子型鋼製ダムが採用されています。土石流や流木は止め、安全な土砂は極力下流に流そうとの考えです。また、工期短縮と工事の廃材を減少させるための工夫として、コンクリート製残存化粧型枠が採用されています。

下流の護岸工整備区間では、隣接する農村公園の景観に合う「アルプス地方の溪流」をコンセプトに、護岸に自然石を用いたほか、構造物の部分もコンクリートが見えないよう表面に石が埋めこまれています。特に、公

播但連絡道路の神崎北ランプを下りて国道312号を北へ約2km。生野峠手前の神崎町猪篠地区に、神崎農村公園「ヨードルの森」がこの4月にオープンしました。

砂防河川の追上川を 景観を創造し、 自然環境を守りながら整備

平成9年夏の豪雨を契機に追上川の砂防工事に対する要望が高まっていたところに、町の45周年記念事業として是非とも農村公園を平成13年に開園させたいという神崎町の希望もあり、県では国などとの協議を重ね、平成10年度から、土石流対策として砂防ダムと、曲がりくねった約1kmの区間で護岸工の整備に着手することになりました。

県と町の事業を一体的に進めるための予算として、通常砂防事業費に加え旧国土庁の調整費（連携調整）も認められ、開園前の3月、わずか2年余りで総額約9億円の砂防事業が完成しました。

“美しい兵庫”をめざして

少子高齢の成熟化に伴う本格的な地方分権と公民協働の時代を迎えつつあるなか、人々の価値観は、物から心の豊かさへと大きくシフトしており、個人や地域の主体性が十分発揮できるライフスタイルの構築や生活者の視点に立った地域づくりが求められています。

平成十二年度の県土整備行政は、成熟社会に向けて真の豊かさを実現できる社会を実現していくため、まち全体が住民一人ひとりととって安全で安心な生活空間として、自然や豊かな人間関係が息づき、生きる喜びと感動が実感できる「人間サイズのまちづくり」を進めてまいりました。

こうしたなか、北摂整備局では、本年四月二十九日に開園した県立有馬富士公園の整備を推進するとともに、「住民参画型」の県立公園の運営の実現に向け検討を進め、その取り組みをスタートさせました。

同公園は、人口増加の著しい北摂地域の良好な自然環境を保全するとともに、広域レクリエーション需要を担う「自然休養型の文化公園」で、人と自然の博物館と連携して、人と自然・文化との関わりを発見し再生していく「みんなで作るふるさと公園」を基本コンセプトとしています。

県民自らが考え（計画・設計）、つくり（整備）、つかう（管理運営）各プロセスを重視した公園づくりと人づくりを目指し、県民が参画

する「有馬富士公園運営計画協議会」を平成十二年十月に設置し、「県民参画と協働による公園運営」として、協議会を中心に運営計画の策定や住民参画の具体案の公募を行い、開園時一週間にわたりオープンイベントが取りおこなわれました。

本年四月には、多様化、複雑化する政策課題への総合的かつ的確な対応を可能とする組織体制として、県の地方機関を総合的に再編し、地域総合自治機構の新しい県民局が設置されました。

阪神北県民局は、昨年策定された、多様で個性的かつ自立性にあふれた市民が「新しい公」の領域を担いつつ、行政がこれを支援する新しい枠組みのなかで、市民全体の幅広い社会経済活動が展開する阪神市民文化社会の創造を目指す「阪神市民文化社会ビジョン」「新しい公」の時代をめざして「の実現に向け総力をあげて取り組んでまいります。

「県立有馬富士公園」で実践した「県民参画と協働のシステムづくり、人づくり」を積極的に拡充していくとともに、県民の信頼を得る総合事務所の確立に土木技術者として培ってきた感性をいかし、「自律と共生」、「安全と安心」を基本とする理念のもと、「参画と協働」の基本姿勢をもつて、明日への夢をかなえる「美しい兵庫」づくりに全力で取り組んでまいりますので、皆様方の今までの協力ご支援をお願いいたします。



越智 秀
阪神北県民局長

Topics

(仮称)西紀トンネルの建設工事に着手

丹波県民局篠山土木事務所が進めている(仮称)西紀トンネル(延長456m)の建設工事が始まりました。

これは、平成11年度より山村振興(県代行)事業篠山市道西紀丹南線道路改築工事(延長870m)の一環として行われているもので、昨年10月、当工事の最大の山場となるトンネルの建設工事に着手しました。

当センターは、平成10年度に旧西紀町より詳細設計の設計協議および積算業務を受託し、平成13年度からこの工事の工事監理業務を受託しています。



この道路は、JR篠山駅や舞鶴自動車道の丹南篠山インターと篠山市北部(旧西紀町)を直結し、国道176号と主要地方道篠山三和線のバイパスとしての機能を果たす重要な役割を担っています。

石井ダムの本体工事に着手

神戸県民局神戸土木事務所が進めている石井ダム(堤高66.2m、堤頂長178.0m、総貯水量220万 m^3)の本体工事が始まりました。

このダムは、神戸市の市街地を流れる新湊川(流域面積約30 km^2)の総合治水対策の一環として整備されるもので、昭和56年4月に事業着手、これまでダム建設により水没する神戸電鉄有馬線の付替工事や鈴蘭台汚水幹線トンネルの付替工事等が行われてきました。

当センターは、平成13年度よりこの工事の工事監理業務を受託しており、平成17年度の完成を目指し、鋭意取り組んでいます。



蘇武トンネルが貫通

去る1月28日、城崎郡日高町と美方郡村岡町を結ぶ、一般国道482号の蘇武トンネル(延長3,692m)の貫通式が行われました。

このトンネルは、平成9年度から但馬県民局豊岡土木事務所と同浜坂土木事務所により建設が進められているもので、作業中は大量の湧水のため難渋を極めましたが無事掘削を完了しました。

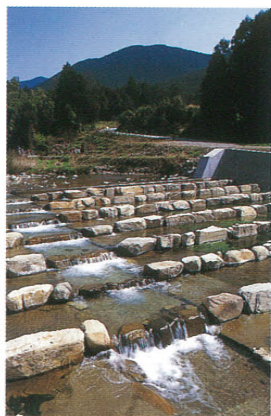
当センターでは、村岡工区(延長1,214m)について、平成10年度から積算と工事監理業務を但馬県民局浜坂土木事務所より受託しています。

このトンネルの整備により但馬地域の東西の幹線道路網の機能が向上し、両地域の人的・経済的交流が促進され、産業・観光の振興に貢献するものと期待されています。



「川のクリーンウォーク」を終え記念植樹を行う「夢花フォーラム」のメンバー

この夢花フォーラムは、町内の川をゴミ拾いしながら約8km歩く「川のクリーンウォーク」を平成8年から続け、毎回、終了後には川沿いに桜や紅葉の苗を記念植樹しています。



国道312号に並行する猪篠川の魚道付き落差工(太山地区)

また、昨年は「ノイやる・ウィーク」の受け入れで5人の地元中学生も体験参加するなど、活動が広がっています。越知川では清流にしか住まないイシヤコ(イシヤコ)が見られるなど、着実に成果も表れてきているようです。

夢花フォーラムによるまちづくりの構想を具体化するため町は、平成9年6月「花のまちづくり事業」として「花のあふれる川づくりウォーキング」を内外から参加者を集め実施しました。さらに、「花のあふれる川づくり委員会」を発足させ、「いしくば王国づくり」と銘打った川づくりの方針と行動プランを専門家のアドバイスを受けながらワークシヨップでつくり、その実現に向けた活動を進めています。

「西播磨地域ビジョン」の中にも、地域の6つの夢の一つに「人と自然の営みが調和した循環型社会」が挙げられていて、住民・企業・行政がパートナーシップをもつて、西播磨の各水系をホテルやメダカの住める美しい川にしようとの目標が掲げられています。



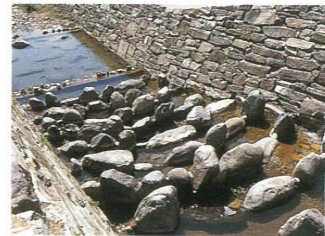
岡本 坦 中播磨県民局県土整備部長

める県民運動を展開していくことが重要ではないでしょうか。神崎農村公園も、そうした取り組みを受けて協力させていただきます。今後の成功を期待しています」と、岡本 坦 中播磨県民局県土整備部長は、地域や住民と一体となった取り組みについて手応えを感じています。

ヨーロッパ・アルプス風の建物と親水空間が広がる神崎農村公園ヨーデルの森

播磨と但馬を結び、人々の往来で賑わった生野峠。そこにはフジの花が咲き誇る「藤

追上川はサワガニやカワヨシノボリ、アマゴ、カワツなどが住む清流です。今年の夏は、農村公園を訪れた多くの子どもたちが水辺の生き物たちと出会う喜びを知り、水辺で遊ぶ楽しさを実感することでしょう。



方形石を水平に重ねた護岸と魚の遡上に配慮したスロープ式落差工

園内を流れる中流部では方形石を水平に重ねる小端積とし、ヨーロッパの建造物の外壁の雰囲気を出しています。工事区間には全体で約50mの高低差がありますが、魚が遡上しやすいようにスロープ式落差工とし、箇所のみ小さな滝をイメージして魚道付の落差工としています。また、河床に自然石を置いたり水深に変化を持たせて生き物の棲息環境を大切に、さらに、水辺で遊べるように階段式護岸や緩傾斜護岸、一部で川の中の遊歩道も設けられています。

園内に入ると、色とりどりの花が迎えてくれ、左手には調整池の役目を果たす湖に張り出すように建てられた丸い形の「水辺のレストラン」が見えてきます。続いて、町内でとれる農産物をパンや豆腐、菓子、乳製品、発泡酒に加工する様子を見学できる「加工工房」、農産物の様々な加工体験が気軽に楽しめる「創作体験施設」が続きます。その先には、棚田をイメージして階段状に配置された水深15cmから35cmの5つの「じゃぶじゃぶ池」、香寺町在住のメダカの大家である永吉正寛氏



洪水調整池を利用した水上レストラン「エーデルワイス」

「神崎農村公園ヨーデルの森は、町内で4番目の観光施設です。グリーンエコー笠形は宿泊とスポーツ、新田ふるさと村は野外活動、神崎農村公園ヨーデルの森は日帰りのレジャー機能と、それぞれの個性を持っています。これらの施設と世界の桜を集めた桜華園を有機的に連携することで、多くの観光客を受け入れ、町の活性化をめざしたいですね」と足立理秋神崎町長は語ります。



一年を通して多くのドライバーに利用されている国道312号吉富地区のチェーン着脱場

が植えられて美しく、一年を通して多くのドライバーに休憩施設として利用されています。ところで、このチェーン着脱場の西側を流れる猪篠川沿いには、ふるさとを美し

ヨーロッパ最新の舗装技術を用いて明治9年に改良工事が完成し、播但鉄道開通までの間、生野銀山の物流を支えてきた生野銀山道(鉱山寮馬車道)。この道は国道312号として、平成12年5月に全通した播但連絡道路とともに、兵庫の経済活動や地域の生活を支えています。



足立理秋 神崎町長

住民と行政との協力で道と川を花いっぱい、憩いと交流の場に



自然環境への影響を少なくするために採用された透過型の格子型鋼製ダム(鋼製部重量185t)

園内を流れる中流部では方形石を水平に重ねる小端積とし、ヨーロッパの建造物の外壁の雰囲気を出しています。工事区間には全体で約50mの高低差がありますが、魚が遡上しやすいようにスロープ式落差工とし、箇所のみ小さな滝をイメージして魚道付の落差工としています。また、河床に自然石を置いたり水深に変化を持たせて生き物の棲息環境を大切に、さらに、水辺で遊べるように階段式護岸や緩傾斜護岸、一部で川の中の遊歩道も設けられています。

研修会参加者レポート



市町建設行政 部・課長研修に参加して

篠山市建設部
谷掛 桂

今回の研修は、4月からの実務で必要となる入札契約適正化法など、時宜を得た意義あるものでした。

今後は、多様化する住民ニーズや地方分権による市町への権限移譲により業務が拡大し、情報公開法により入札関係以外にも多くの情報の公開が求められます。また、コスト縮減への取り組みなど、建設行政に携わる職員も意識の改革が必要となります。

建設技術センターの開催する研修会が、技術力の向上に加え、共通課題に対する意見交換による自己研鑽（改革）の機会となるよう研修会の継続を大いに期待します。



構造物基礎設計のための地盤調査に関する技術講習会に参加して

淡路県民局県土整備部企画調整担当
黒坂 公晶

私は当時、橋梁下部工の工事を担当しており、この講習会の照会文を見て、基礎工における「失敗例に学ぶ」といった内容があるということでご参考になると思い参加しました。

さて、その「失敗例」ですが、まさに私が担当していた現場で起こっていた事例とおなじであり、ちょうどその解決方法について検討していた時期でもあったので、参考事例を知り（自分の知識不足？）少しほっとしました。

私たちの仕事は、経験が非常に大切な財産・知識となることが多いので、諸先輩方の事例を知ることには非常に良かったと思います。また、コンサルタントと協議していた基礎工事に関する内容を、この際、別の立場から考え方をチェックしていただこうと思い質問状を出したところ、後日、適切な回答をいただき助かりました。

今後も色々な疑問やトラブルに直面すると思いますが、それとも良い経験と思って悩み考え、また知恵をいただきながら、技術力を向上させていこうと思います。



道路計画に関する技術講習会に参加して

三日町町施設課
鞍田 誠

現在の職場に勤務して1年、以前は公民館で社会教育（体育）を担当していたので、建設事業のことについては、「いろは」の「い」も分からない全くの「ド素人」だったのですが、子供の頃から工事現場を見るのが好きで、建設事業には大変興味がありました。

講習の内容、特に設計演習では、正直のところ技術が未熟すぎる面があり、いまいちピンとこないところもありましたが、全体的に私のような素人でも理解できるよう丁寧に行われました。

技術基準の変更により、歩行者の優先や環境への配慮が必要とされる中、社会教育で得たソフト的な面もあわせ、今後の道路づくりに生かしたいと今回受講して考えました。



兵庫県建設技術センター 5年間の歩み

財団法人兵庫県建設技術センターは、兵庫県および県内市町の建設技術の向上と公共事業の効率的な推進を支援するため、建設技術に関する調査研究や研修、並びに建設事業に関する設計、積算、工事監理、情報処理業務等を行い、もって良質な社会資本の整備に寄与することを目的として、平成8年4月1日に設立されて以来、5年が経過いたしました。

この間、時代の変化に対応しつつ、公益法人としての使命を果たすべく、県および市町の要請に応えるため、事業所の整備、執行体制の確立、情報化の整備、技術水準の向上などを図りながら、経営基盤の拡充に努めてまいりました。

平成8年度

- 4月 1日 設立許可、開所式（総務・建設指導・建設技術の3部、八鹿・洲本の2出張所、阪神・播磨・但馬丹波・淡路の4事業所で業務実施）
- 5月 7日 最初の応援職員辞令交付式（阪神淡路大震災の早期復旧・復興を図るため、14の他県センターから 計34人の応援を受けた）
- 7月15日 最初の研修事業として、県土木職採用職員研修を実施
- ～17日 （市町職員研修については、11月13日の管理監督者建設行政研修からスタート）

平成9年度

- 7月23日 センター・テクニカルセミナーを開始（平成11年度まで3カ年実施）
- 1月 1日 センター機関誌「CON-TECHひょうご」を創刊
- 2月20日 兵庫県防災エキスパート登録制度を創設し、募集を開始（5月25日に発足式を開催し、登録者260人が活動を開始）

平成10年度

- 4月 1日 組織改正（総務・技術企画・建設技術の3部、阪神・播磨・但馬丹波・淡路の4事業所に改正）
- 1月11日 技術顧問制度を創設
- 3月11日 専門分野別の技術講習会を開始（PC橋の基本・計画・施工・積算について開催）

平成11年度

- 3月25日 統合情報管理ネットワークシステム全体構想を策定

平成12年度

- 4月 1日 組織改正（但馬・丹波事業所を廃し、新たに但馬事業所と丹波事業所を開設）
- 10月10日 ホームページを開設（<http://www.hyogo-ctc.or.jp>）

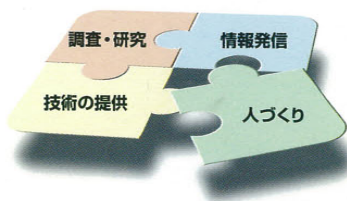
積算・工事監理・設計他業務 年度別受託件数

	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度
積 算	174	115	157	158	174
（ 県 ）	171	105	147	156	171
（ 市 町 ）	3	10	10	2	3
工 事 監 理	19	34	37	50	49
（ 県 ）	19	34	36	46	44
（ 市 町 ）	0	0	1	4	5
設 計 ・ 他	10	15	16	18	22
（ 県 ）	6	11	12	14	16
（ 市 町 ）	4	4	4	4	6
合 計	203	164	210	226	245

階層別研修会・専門分野別技術講習会 年度別開催回数

	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度
県土木職研修会	2	2	4	5	5
市町職員研修会	1	2	3	3	3
現 場 研 修 会	-	2	2	3	3
専門分野別技術講習会	-	-	1	3	5
合 計	3	6	10	14	16

(財)兵庫県建設技術センター 平成13年度事業内容の紹介



成長から成熟の時代を迎えた現在、住民の価値観も多様化し、新しい時代にふさわしい社会システムやライフスタイルの創造が求められています。一方、厳しい財政状況の下で、国をはじめ県、市町では行財政構造改革による公共投資の縮減が余儀なくされ、限られた予算の効果的・効率的な執行、コスト縮減等が求められています。また、公共工事の透明性及び公正さの確保をより一層求められるようになり、「公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律」が本年4月に施行されました。さらに県では、県民ニーズに対し的確かつ機動的に対応するため、現地解決型行政を目指し、地方機関の統合再編による総合事務所化など県民局の再編が行われました。

こうした状況にあって、県や市町においても公共工事の発注者として果たすべき責任が多様で複雑なものとなっています。

当センターでは、公共事業の発注者支援機関とし、ますます多様化する支援要望に応えることができるよう研修会の開催や、県・市町事業の受託、統合情報管理ネットワークシステムの整備など一層事業内容の充実に努めます。特に、市町に対しては、一連の事業のライフサイクルを視野に入れ、幅広く支援できるよう取り組みます。

研修会への参加や建設技術に関する相談など、気軽に当センターをご利用ください。



（一）電泉那波泉道路改良工事では積算と工事監理を受託（電泉橋）

県や市町が実施する公共土木工事に市町事業に市町業務に市町建設事業担当職員、新研修会、市町建設行政部・課長研修、専門分野別研修、技術講習会、（道路計画、舗装、PC橋、鋼橋、地盤調査、他）

県・市町事業への支援

- 県外現場研修 1回
- 県内現場研修 2回
- 〇階層別研修
 - 県土木職採用職員研修
 - 県土木職中級職員研修
 - 県土木職中級職員研修（主任）研修
 - 県土木職5級職員研修
 - 市町建設事業担当職員、新任研修
 - 市町建設事業担当職員、中堅研修
 - 市町建設行政部・課長研修
 - 専門分野別研修
 - 技術講習会
 - （道路計画、舗装、PC橋、鋼橋、地盤調査、他）
- 〇現場研修
- 〇県外現場研修 1回
- 〇県内現場研修 2回

県市町の建設技術職員の資質の向上や技術力の涵養を図るため、階層別技術研修や専門分野別技術研修および現場研修を実施します。また、土木事務所などが主催する研修会に要請を受け、講師の派遣等の支援をします。

＜平成13年度開催予定研修＞

〇階層別研修

- 県土木職採用職員研修
- 県土木職中級職員研修
- 県土木職中級職員研修（主任）研修
- 県土木職5級職員研修
- 市町建設事業担当職員、新任研修
- 市町建設事業担当職員、中堅研修
- 市町建設行政部・課長研修
- 専門分野別研修
- 技術講習会
- （道路計画、舗装、PC橋、鋼橋、地盤調査、他）

道路概略設計の演習を通じ、計画の手順およびポイントを指導（技術講習会）



研修会の開催

次の点に留意し、総合的に取り組みます。

〇ムラをなくします

国県等の技術基準や積算基準類の改正に、的確に対応できます。工事の適正かつ能率的な施工の確保と、技術水準の向上を図れるなど良質なムラのないモノを調達できます。

〇ムダをなくします

最新の技術でムダを省きます。例えば、仮設工法や架設計画等、最も経済的な施工計画をアドバイスします。会計検査時に技術的サポートをいたします。

〇ムリをなくします

トンネルや大規模橋梁等についてのノウハウが得られます。その結果、市町担当職員にゆとりができることから、住民ニーズの的確な把握、反映への創意工夫となつて、住民サービスの充実に繋がります。

技術図書 の 発行・販売

建設技術および公共工事の契約に係る図書の発行・販売を通じて、技術者の資質の向上を図ります。平成13年度は、「小型構造物標準図集」などの販売に加え、「土木請負工事必携」などの発行・販売を予定しています。

民間技術者への支援

（財）全国建設研修センターが主催する「2級土木施工管理技術研修」に、センター職員を講師に派遣し、民間技術者の資格取得を支援します。

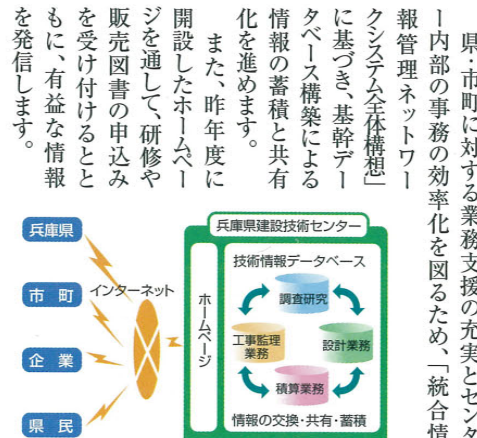
センターの技術力の向上

（財）全国建設研修センター、（社）全日本建設技術協会などが主催する研修会にセンター職員を参加させるとともに、これらの報告会

アドバイス制度の充実

建設技術に関する質問や相談に対し、センターが有する技術力や情報、さらには技術顧問制度も活用しながら、原則無料で、適切な回答や助言を行うアドバイス制度を充実させます。

統合情報管理ネットワークシステムの整備



防災エキスパートへの支援

防災エキスパート登録制度の事務局として、県市町のOBの方々の登録を受け付けるとともに、活動のための資料提供や研修会の開催などの支援を行います。